日ロ交流

発行　：特定非営利活動法人　日ロ交流協会
E-mail:nichiro@nichiro.org
Home Page http://www.nichiro.org
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号
Tel：03（5563）0626　Fax：03（5563）0752

マトリョーシカ作品展示 Ⅱ

千葉 麻里

11月14日（木）18時から赤羽会館で行われるコンサートに併せて入り口で、マトリョーシカ教室の作品が展示された。当初の予定とは異なり、会場の都合で販売はできなかったが、教室のチラシを用意して宣伝することができた。

コンサートは7時からであったが、6時からもう人が詰め掛けており列ができていた。急いでエレーナ先生と、お手伝いに来てくれた息子さんや教室の三井さんと共に、テーブルにマトリョーシカを広げる。時間がまだ早いので、列を崩して展示を見に来る人もあった。出場者のバレリーナたちも珍しげに、あるいは懐かしそうに展示を見たり作品を触ったり。

見学者からしばしば発せられることだが、自分は絵心がないから無理だ、という。教室の生徒達は素人がほとんどで、先生の指導でここまでできるし、それぞれ個性を発揮して様々な作品になる。アイデアも面白くて私も勉強になる、と説明しても日本人はなかなか信じてくれない。いつも親子で参加してくれる生徒さんの作品が、アニメを元にしたもので玄人はだしのうまさだ。子ども達も足を止めて、「これ知ってる」と言いながら手にとって騒いでいた。

交代で番をしながらコンサートも覗いたが、バラエティに富んだ内容で、フルート、ピアノ、声楽、バレエなどどれも楽しく見事だった。後半はバレエの伴奏にフルートとピアノが使われたがフルートの音色は特に素晴らしかった。フルート、ピアノは流石にマリンスキーのソリストというだけあって聞き応えがあった。バレリーナたちは日本人だったが、その技術の高さに日本のバレエを見直してしまった。声楽は協会でもチャリティコンサートをお願いしたことのあるパンチェンコさん。近年、日本で大活躍中だ。コンサート自体は内容もよく考えられていてレベルも高いもので、会場が十分に埋まっていなかったのはとても惜しい気がした。

いつもなら神保町の書泉グランデで展示会をする時期だが、来場者数がはかばかしくないということもあり、今回は場所を変えてみた。主催したグロバスカルチャースクールのナタリアさんの協力を得て協会も後援として名を連ねたが、協会からの来場者はなかった。ナタリヤさんやエレーナ先生の馴染みのロシア人も多く見に来ており、興味を示してくれたが、全体として教室の宣伝につながったかどうか。

展示会を開催するに当たり、来場者が見込まれる場所で費用のかからないところを探すのは難しい。費用捻出のために売り上げにも結び付けたいとしたら、なおさら会場の選定が困難になる。教室はいくらかコンスタントに生徒が来てくれるようになったが、まだまだ課題が山積みだ。（常任理事）

お願い

NPO日ロ交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。服部文男氏からご寄付を頂きました。ご協力ありがとうございます。
振込先：郵便口座00160-9-66486、加入者：日ロ交流協会
連絡先：日ロ交流協会事務局E-Mail：nichiro@nichiro.org
Tel:03-5563-0626 Fax:03-5563-0752

お知らせ

●第66回マトリョーシカ絵付け教室
日時：2019年12月8日（日）13：00～16：00
講師：菅野エレーナ
場所：新橋生涯学習センター「ばるーん」202学習室
会費：3,000円（5個セットの教材、講師代、お茶代含む）
＊会場がいつもと違いますのでご注意ください。
新橋駅烏森口から徒歩3分

●「第4回夏期ロシア語現地学習会」説明会
2020年夏、ハバロフスク市の太平洋国立大学で、観光を含めたリーズナブルで楽しい一週間のロシア語短期留学をしませんか。好評につき4回目を実施することとなりました。
日時：2020年2月1日（土）13：30～15：30
場所：新橋生涯学習センター「ばるーん」204学習室
参加費：無料
＊映像や参加者の体験談を交え、詳細をご説明いたします。

●ロシア語クラス生徒募集中
ゼロからクラス（毎日曜）14：00～15：30
初級クラス（毎水曜）18：00～19：30
準中級クラス（毎月曜）18：00～19：30
中級クラス（毎火曜）18：30～20：00
上級クラス（毎土曜）10：00～11：30
翻訳クラス（土曜月2回）13：30～16：00
忙しい方のための中級（土曜月1回）13：30～16：00
テーマ別ロシア語（日曜月1～2回）13：30～16：30
月4回クラスは5500円×3ヶ月前納、原則、会員のみ。
＊休講になる場合もございますので、見学の方は事務局にお申し出ください。テーマ別ロシア語について、ご希望のテーマがありましたらご提案ください。
＊お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで
Tel：03-5563-0626　Fax:03-5563-0752
E-Mail:nichiro@nichiro.org

モスクワ散策－アクヴェドーク（水道橋）公園

畔上 明

モスクワ市内を走るモノレールをご存知でしょうか。2008年1月10日正式に運行を開始、高架であるにもかかわらず2015年からは地下鉄13号線としてメトロ路線図に組込まれました。近々再構築されるかもしれぬとの噂も出ていたことから、今年の夏、全線4.7㎞ 東西6駅を18分で走るモノレールに乗車してきたのでした。植物生理学者チミリャーゼフの名を冠した国立農業大学、232ヘクタールもの広さを誇る森林公園、その最寄駅となる「チミリャーゼフスカヤ」から出発、モスクワ北西部から東進して、途中駅「テレツェントル」では、北側の池の畔りにシェレメーチェフ宮殿と農奴劇場、南に高さ540mのオスタンキノ・テレビ塔を眺めることが出来ます。

東端の「セルゲイ・エイゼンシュテイン通り」駅に到達する手前では、宇宙パビリオンで知られるVDNKH（ヴェー・デー・エヌ・ハー／全ロシア博覧センター）、コスモス・ホテル、鎚と鎌を持つ労働者とコルホーズ女性の像を目にすることになります。

この最終駅から駅名となっている通りを北西1km程進むと曲角にゴーリキー撮影所があり、そこから北に向かって東ドイツ初代大統領ウィルヘルム・ピークの名前の付いた通り名となって延びていてそこに「全ロシア映画大学」が建っています。無声映画時代モンタージュ理論を唱え「戦艦ポチョムキン」を制作した映画監督エイゼンシュテイン、映画大学で教鞭を執ったことからこの駅名、通り名にその名が記念として付けられたようです。

駅を降りて南北に走るプロスペクト・ミーラ（平和大通り）を渡った先に「アクヴェドゥーク（水道橋）公園」が広がっているのですが、何といっても古代ローマ時代の様な高さ15m、長さ356m 、21のアーチの水道橋が美しい景観を成していて、そのアーチの下を、老婆が散歩していたり、乳母車を押す女性たちが行き交うのどかな姿に見とれてしまいます。

かつてモスクワの住民が飲料水として利用していた井戸や池が充分とはいえず、汚染によって赤痢やコレラが深刻な問題となっていました。18世紀後半にはペストが流行、エカチェリーナ女帝によって、きれいな水が湧き出る16㎞北東のムィチーシチ（トレチャコフ美術館のペローフ「モスクワ近郊ムィチーシチでのお茶の時間」をご覧になった方もいらっしゃるでしょう）より、木とレンガによる地下給水管がモスクワまで敷かれる工事が行われたのでした。ヤウザ川の流れる谷は、給水管を渡す橋が必要となり、そこにロストーキンスキー・アクヴェドゥークが建設され、当時としてはロシア最大の石橋となったこともあり、ミリオーヌィ橋とも呼ばれたそうです。ニコライ・カラムジンによって「エカチェリーナの慈愛の記念碑」と呼ばれ、そして現在では憩いの公園のシンボルとして、観光名所ではない知られざる美しい光景を今に伝えているのです。

（「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー）

国際放送史研究の戯言No. 004

ペレホート（横断地下道）

島田 顕

モスクワの都心では歩道橋というものをあまり見かけない。大通りを横切るには横断歩道もあるが、ペレホート（横断地下道）を使うことが常だ。ペレホートは単なる地下道ではない。小さな売店が軒を連ねる商店街がそこに広がっているのだ。売店は、ガラス張りのもので、日本でいえば駅のキヨスク、もしくは縁日の屋台くらいの大きさである。

ペレホートの商店街ではありとあらゆるものが手に入る。洋服、パン、菓子、時計、薬、アクセサリー、新聞、雑誌、玩具、ＣＤ、ＤＶＤ、野菜、果物、調味料、酒、コンピュータ・ソフト、電池、花、清涼飲料、コーヒー、紅茶等々。枚挙の暇がないくらい。商品ごとに専門の売店がある。なかには軍からの横流し品なのだろうか、赤外線スコープや双眼鏡を売る売店もあった。軍装品はアウトドア用品として人気があるのだ。また劇場近くのペレホートにはチケットの売店もある。

２年前のこと。クレムリン側のメトロポール・ホテルからツム百貨店に行くペレホートに日本製の清涼飲料の自動販売機が置かれていた。驚くとともに感動した。自動販売機という日本の文化を代表するものがモスクワのペレホートに置かれているなんて、なんて素敵なことだろうと。早速ロシア人の友人に自慢した。だが、ペレホートの商店街が、やがて日本の自動販売機群に取って代わられてしまうのではないかという、一抹の不安もある。

ペレホートには多くの人々が集まる。だからペレホートはしばしばテロの標的にされる。まだ放送局に勤めていた頃、私がよく歩いていたペレホートで爆発が起こったという第一報が入った。地下鉄トゥヴェルスカーヤ駅からプーシキン広場の下を通りクレムリン方面へ、帝政時代から続く食料品百貨店「エリセーエフの店」の方に抜けるトゥヴェルスカーヤ通りに沿ったペレホートだ。

第一報だけでなく、関連ニュースをその日の放送にできるだけたくさん盛り込むために、みんなで急いで翻訳し、何とか間に合わせることができた。仕事が終わった後、テロの標的にされたペレホートに先輩とともに行ってみた。規制線が張られていて近づくことができないと思っていたが、行ってみると普段通りに歩くことができた。日本だったら、このような事件現場には一週間以上は規制線が張られていて、決して立ち入ることはできない。ところがロシアでは数時間で規制線が解かれてしまうとのことだった。だが、そこには何もなかった。あるのは黒こげになっただだっ広い通路だけ。売店群も、おそらくそこで亡くなったであろう大勢の人々の遺体もすでに撤去されていたのだろう。何もかも一瞬の爆発で奪う爆弾テロの恐ろしさを目の当たりに知ることになった。

その後しばらくしてテロに遭ったペレホートには、以前と同じような商店街がよみがえった。地下道の端にはテロ犠牲者追悼のための碑が建てられていて、今でも花が絶えることはない。

《モスクワ・アラカルト56》

海老名 ラグビーロシア代表を市をあげて応援！

日向寺 康雄

11月17日、海老名運動公園で催された市民祭りの枠内でERS（えびなラグビーサポーター）の解団式があった。我が故郷海老名はW杯ラグビー日本大会ロシア代表の公認キャンプ地となった事から、いつも前向きで実行力に富んだ内野市長を先頭にまずロシアチームへの全面サポートを決定、5月には準備段階から積極的に関わってきた倉橋市議会議長自ら応援団長を務めるERSを結成（メンバーは予想を超える約400名）、オールエビナでの「おもてなし」を誓った。

6月には市内13の小学校で2日間、給食でボルシチとピロシキが振る舞われ、7月には在日ロシア大使館のアダモヴィチ二等書記官が市役所で「現代ロシアと日ロ関係」をテーマに流暢な日本語で小学生も含め100人近い市民を前に講演した（ソ連時代から地元で友好運動を進めてこられた草分け的存在である平岡元市議、協会からは服部副会長も出席）。また海老名駅にはロシア選手の大きな写真と共にカウントダウンボードも設けられ、ERSはメンバー全員にロシアのチームカラーである赤のポロシャツを用意、市内ではW杯に向けた雰囲気が否が応にも高まった。

W杯は9月20日、奇しくも日本対ロシアで幕が切って降ろされたが、海老名では駅間芝生公園に大スクリーンを設置、多くの市民がパブリックビューイングで観戦した。開幕戦を前に市長は、スポーツ報知のインタビューの中で「ロシアには是非とも一勝してもらいたい。複雑なのは日本との初戦。大型ビジョンを前にどっちの旗を振るかという問題があるが、海老名がキャンプ地である以上ロシアを応援するしかないでしょう」とユーモアたっぷりに語り「海老名市は海外の姉妹都市が一つもない。議会などの御理解も必要だが、W杯をきっかけにロシアからのアプローチがあれば前向きに検討したい」と述べている。

続いて28日にはキャンプ地となっている運動公園で、ロシア選手との交流会が催された。当初チームからは数人が参加予定との事だったが、そこは日本の「常識」では予測不可能なロシアのこと、何とほぼ全員がバスで海老名にやってきた。おかげで地元の少年ラグビーチームや市民との交流は楽しく賑やかに盛り上がったが、市担当者の裏の苦労はいかばかりであったろう。

私は通訳ボランティアをさせて頂いたが、歓迎挨拶の中で市長は「人口13万強の海老名市に、今ロシア人は一人しかいない。この交流を契機に、たくさんのロシア人がこの町に来てくれるようになると嬉しい」と述べた。ロシア側も、子供達がロシア国歌を歌い笑顔で迎えてくれた温かい歓迎ぶり、どこの試合場に比べても引けを取らない素晴らしい芝生を整備して下さった関係者の方々等に心からの感謝を伝えた。

なお10月9日のロシア対スコットランド戦には、海老名からERSのメンバーがバス6台を仕立てて静岡まで応援に向かった。正直、今回ロシアチームの成績は残念なものだったが、海老名に撒かれた友好の種を、私はロシアとこの町をこよなく愛する者として今後も大切に守り育ててゆきたいと思っている。写真は海老名市提供。（元モスクワ放送チーフアナ、現中央大学・早稲田大学非常勤講師）

モスクワ「ムゼイ」巡り・その18

矯正労働収容所博物館

Музей истории ГУЛАГа

大矢 温

日本でもA.ソルジェニーツィンの小説などで一般に知られるようになった矯正労働収容所（思想を矯正するための収容所なので「矯正」。「強制」ではない）。この矯正収容所の歴史を今に伝える博物館だ。ソ連時代、1930年代から反政府活動やスパイ活動など無実の罪を着せられて、一説には約2000万人が収容所に送られたといわれる。厳しい環境の下で材木の切り出しや鉱山労働、運河や鉄道の建設に駆り出された。過酷な労働環境や拷問によってその多くが収容所で命を落とした。その他、1937年から酸鼻を極めた大粛清の時代には何十万人もが銃殺刑で命を落とした。というわけで矯正労働収容所はスターリンの恐怖政治の時代を象徴する施設でもある。

さて、この博物館、一旦2001年に開館したが、2015年に内装や展示も一新し国立博物館として現在の場所で再オープンした。収容所を思わせる柵や扉に囲まれた陰気な外観の5階建ての建物なので、通りを歩きながらでも一目でここが矯正労働収容所博物館であることがわかる。黒を基調とした薄暗い館内に足を踏み入れると、まず大量の扉を目にすることになる。独房で実際に使われていた扉だ。この扉の向こうでどんな生活が営まれていたのか、沈痛な気分になる。さらに進むと、矯正労働収容所の歴史を物語る地図や当時の写真と並んで、収容されていた人々が使った日用品、日記や手紙などが展示されている。多くは帰らなかった人々だ。展示自体は現代美術館を思わせるようなあか抜けたものでシベリア最北端のウラン鉱山の収容所跡をヴァーチャル・リアリティーで体験することもできたりする。

しかしここに展示されている歴史の事実が見る者の心にのしかかる。出口のところに掲げられた「過去が明日繰り返されないために、今日われわれは何をすべきか？」という言葉が重い。ロシア人のみならず、全人類が担うべき課題であろう。

入場料　大人300ルーブリ
金曜休館
最寄駅 地下鉄Достоевская，
　Цветой бульвар，
　Новослободская
https://goo.gl/maps/suw7k4hZq3aeCqWq8

（札幌大学地域共創学群教授）

ロシア語会話集のはなし

藤本 信義

大学入試の英語の共通テスト改革が混迷している。読む、書く、聞く、話すの4技能の評価をバランスよくという本来のゴールの前に、民間試験の活用というところで大きな「利権」に振り回されているようにも見える。50万人の高校生が英検やGTECを受験するだけで50億円以上のマーケットですからね。

ところがそれに比べればはるかに小さいロシア語マーケットに異変が起きていて、入門書が3冊も同時に刊行されたことを前回書いた。入門書を読破したら（しなくても）、次は会話である。昔ならテキスト読解の勉強に進むのだろうが、現代は「話す」方が大事である。みんなが目指すのは〇〇語がスラスラ読めるではなくて、ペラペラ話せる方だ。それにインターネットの世の中では、何と言ってもまずは発信の方が大事なのだ。そうしたら入門書を買った読者の多くが次に買うのは会話集のはず。有名な会話集（ラズガボールニクＰ-ａзговорник」）は絶版になって久しいし。と出版社が考えたのかどうかはわからないが、新しい会話集が2冊続けて出版された。

①ロシア語表現ハンドブック（熊野谷、スニトコ・タチアナ）白水社　（8月発行）

②たったの72パターンでこんなに話せるロシア語会話（ジダーノワ・エレナ著）明日香出版（9月発行）

①は、日ロ交流協会でもお世話になっているスニトコ先生の共著である。構成は「意見を言う」、「人を動かす・自分が動く」と行ったシチュエーションごとに、サバイバル的な一言から、複雑な情報を伝える長文まで、難易度順に整理してある。例えば9-3章は「依頼」がテーマだが、一番目の例文が「助けて！」で最後の例文が「わたくしどものところで1月にご講演いただくのは可能でしょうか？」と行った具合である。初心者から中級者まで自分の実力にあったところまでがカバーできるなかなかユニークな構成だ。音声は指定のアドレスからダウンロードする方式。私はiPodにダウンロードして聞いている。120ページと薄い本だが今までにどこかで聞いたような表現がたくさん出てきて、理解が進むのがありがたい。

②の「たったの72パターン」シリーズは、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語が同時出版された。中韓はともかく、なぜに葡と露なんだろう？と思わないでもないが、ロシア語の本が増えるのは嬉しい。こちらは典型的な表現別で 「～したいです。」や「～するはずだ。」といった72種類の表現でまとめられている。昔のNHKのスタンダード40のような構成だ。ちょっとくだけて「～ってこと？」とか「～だよね。」といった表現もある。ほとんど入門の語彙で例文がつくられているので、初学者でも割とスラスラ読み進められる。こちらは音源CD付き。

新しい2冊の本を勉強して早くペラペラ話せるようになりたいものであるが、筆者が読むのより早いスピードで新作がでるので悩ましい日々である。この出版不況のなか、早くも「読本」まで出てしまったのだ。（続く）

ロシア連邦共和国紀行　（その４）

服部 文男

『バシコルトスタン共和国』

バシコルトスタンの面積は143,600ｋ㎡、北海道の約1.7倍の広さがあり人口も約410万という6共和国では最も大きく、民族構成もロシア人、パシキール人、タタール人が約30％前後の割合で住んでいる。石油資源が豊富で経済は石油工業に依存度が高いが、自動車工業や金属工業も盛んである。

首都ウファでのホテル前の公園にセン・デヴシュクの噴水があり、その周囲にバレエしているような7人の女性立像がある。この女性達はパシキール人でモンゴル侵攻の際死亡し、北斗七星になったとの伝説がある。さらにサラヴァト・ユラーエフ広場の奥にパシキール民族の英雄サラヴァト・ユラーエフの乗馬した大きな像が崖の上にある。サラヴァト・ユラーエフは1773～1775年のブガチョフの乱で先頭に立って軍を指揮したと云われている。

ベンチで休んでいると若い親子が来たので挨拶したところ、何処から来たのか等との会話から2020年オリンピックが開催される日本の東京と説明すると、納得した後にお願いがあるという。親子と一緒に写真を撮らしてもらいたいとのことであった。この地ではまだ日本人はめずらしいようだ。

生神女誕生大聖堂（ロジデストヴォ・ボゴロディツキー教会）は聖母マリア誕生を祝う教会で1889年建造、スターリン時代は牢獄や映画館に使用されたが、2000年から再び教会として復活した。リャイリャ・チューリップ・モスク（写真）はソ連邦崩壊後モスクが建てられるようになり、トルコと協力し1998年に建造された。地下は神学校、休日はイスラム教を広める教師の試験もあり、ベンチで老婦人が勉強していた。

レーニン広場を通り、国立バシコルトスタン共和国博物館を見学。パシキール人の民族衣装や革製品の他にこの地で採掘される色とりどりの鉱石を使った美術品や装飾品が目立った。

昼食のプロフ（ロシア風チャーハン）、ブリヌイ（ロシア風パンケーキ）を食べた後、約430ｋｍ（約6時間半）先のウドムルト共和国イジェフスクに向かった。共和国間を結ぶ郊外幹線道路は片側1車線で信号は無く、交差点はロータリー方式、車軸の多い巨大トレーラーを支える舗装はすばらしい。しかし場所によっては洗濯板の上を走るような道路もあり身体に堪えた。途中、ロシアではめずらしい有料道路（橋）があり料金ゲートは2か所、大型車で計1730ルーブル（約3400円）のようだった。車窓から見える広大な畑や牧草地帯が続く風景を見ながら広大な国土（日本の45倍）のロシアを再び実感。ウドムルト共和国に入ると遠方に採油と思われる掘削機が見えた。しかし、アゼルバイジャンで見た油田風景とは大きく異なる。（副会長）